

◆重点普及課題

沖縄ミーバイの養殖管理および販売促進活動支援

水産海洋技術センター 牧野清人

1. 目的

「沖縄ミーバイ」(ヤイトハタ)の生産量は平成25年度で93.3t、1.32億円であるが、県では当面100t以上の生産を目標として陸上養殖技術開発ならびに海面養殖における生残率向上に取り組んでおり、将来的な生産量の拡大が期待されている。水産業改良普及業務においては、こうした将来の生産量拡大に対応するため、県内外での流通確保が必要となることから、平成24年度に発足した生産者、取扱業者等を中心とする「沖縄県ミーバイ生産者販売促進協議会」と連携した販売促進活動を実施した。その後平成26年度まで一括交付金事業「養殖ハタ類の国際的産地形成推進事業」により、県内外における沖縄ミーバイの周知、販促活動に取り組んでおり、この結果、国内はもとよりシンガポール等の海外への販路形成へと繋がった。これに伴い今後沖縄ミーバイの需要増が見込まれ、これに対応した安定供給が課題となることが考えられ、これまで以上に養殖管理体制の強化が重要と思われた。27年度は当センター海洋資源養殖班および石垣支所と連携しながらヤイトハタ養殖管理指導を行うと共に、協議会活動への支援を継続して行った。

2. 取り組みの内容

①. ヤイトハタの寄生虫症対策

沖縄本島周辺(伊江島、与那城、宜野湾、座間味、渡嘉敷)の魚類養殖施設において、ヤイトハタを養殖している漁業者に対し、エラムシ等の寄生虫対策として、イケスの管理指導の他、茶抽出物を用いた処理について説明を行った。説明に際しては当センター石垣

支所により作成されたマニュアルを配布した。



ヤイトハタ寄生虫症対策指導(伊江村)

②ヤイトハタ陸上養殖現場指導

南城市大里村において、民間業者により、試験的なヤイトハタの完全閉鎖式陸上養殖が開始された。同業者は8月に県栽培漁業センターよりヤイトハタ種苗1,000尾を購入し、5t容量の円形水槽および砂濾過を含む複数の濾過施設等を使用して閉鎖循環型の陸上養殖を行っていることから、水質管理、給餌量、魚病対策、定期観察等について当センター海洋資源養殖班および栽培漁業センター研究員と連携して指導を行った他、電気代、人件費、餌料費等のコスト計算等について助言を行った。



閉鎖式陸上養殖施設における指導

③沖縄県ミーバイ生産者販売促進協議会活動支援

(1) 協議会活動説明

協議会会長等と座間味村、渡嘉敷村、伊江村、沖縄市の協議会会員を訪問し、平成26年度沖縄ミーバイ販促事業および協議会臨時総会について報告を行った。総会規約、会費等について了承を頂くとともに、今後の協議会活動について協力願った。



協議会員への説明（沖縄市）

(2) 協議会役員会

水産会館にて、協議会役員会を開催した。27年活動としてイベント参加について検討し、すでに開催されたものも含め、沖縄市ファーマーズマーケット周年祭などでのミーバイ汁販売を中心に行うことで一致した。その他、新規加入会員ならびに種苗導入数について話し合われた他、輸出業者から海外マーケットの近況について情報提供を頂いた。

(3) 協議会総会

沖縄県ミーバイ生産者販売促進協議会通常総会が水産会館において開催された。総会には会員の他、海外輸出業者、員外の生産者、県担当職員含め、21名が出席した。議事(平成27年活動・収支報告、28年活動計画・予算案、役員改正)については全員一致で承認された。追加事項として、役員会を複数回開催し、生産増、販促、コスト削減、会員加入促進等の取り組みを今後積極的に行うこととした。総会終了後、情報提供として、水産海洋技術センター石垣支所山内研究員から、同支所において取り組まれている県産魚粉を使った固形飼料によるヤイトハタ稚魚の養殖試験について

の中間報告がなされた。



平成27年度協議会通常総会

(4) 普及・販促活動支援

沖縄ミーバイのPRと実食の機会増加のため、協議会と連携しイベントを企画、実施した。イベント実施状況は以下の通りであった。

- ・4月5日：与那城町漁協主催魚食普及活動において、協議会会長等とともに、沖縄ミーバイしめ方、捌き方、調理方法について小学生団体に指導した。
- ・9月20日：うるま市与那城の海の駅あやはし館にてあやはし祭りが開催され、その中のイベントとして、来場した子供達を対象に、魚さばき体験と沖縄ミーバイのにぎり寿司作り体験が行われた。与那城漁協が主催し、漁協組合員、青年部、女性部が主体であった。また、ミーバイ協議会、観光と長寿と食を考える会が協力し、子供達に指導した。
- ・11月1日：沖縄タイムス主催の料理講習会「タイムスプレミアムキッチン」がカヌチャベイホテル&ヴィラズにて開催された。料理は5品目で、各料理の作り方を同ホテル中村総料理長が実践し説明した。その内の一品として、沖縄ミーバイを使った西京漬けが紹介された。
- ・11月21日：カヌチャベイリゾート内の和食レストランにて、同ホテル中村総料理長ご協力の下、沖縄ミーバイを使った和食の試食会が開催された。同試食会には普及指導員の他、ミーバイ協議会員3名が参加した。料理は先

付け、前菜、焼き物等8品目で、どれも沖縄ミーバイを使った新たな試みがみられた。

- 11月29日：沖縄市JAファーマーズマーケットちゃんぷる一市場8周年感謝祭が同施設にて開催された。沖縄ミーバイ協議会も同イベントに参加し、ミーバイ汁等の販売と子供120名対象のつかみ取りを行った。イベントには協議会員6名が参加し、ミーバイ汁等の販売、パンフレット配布を行った。
- 12月16日：県内外において販売されている沖縄情報誌 uchina に掲載する沖縄ミーバイ特集として、(株)沖縄教販より依頼を受け、協議会から諸見会長、新立理事、新立弘子氏が取材を受けた。場所はカヌチャベイリゾート内の和食「神着」で、生産者、取扱業者、料理人、一般主婦の代表および県普及指導員8名による座談会形式で沖縄ミーバイの生産、流通、品質のこれまでと今後の展望について意見交換した。本特集は uchina2016年2.3月号に掲載された。
- 12月19日：嘉手納町ネーブルかでの内のホームセンタータバタ鮮魚販売施設において、沖縄ミーバイ販促イベントが開催された。イベントは19日、20日の2日間行われ、ホームセンターでの買い物客に抽選で20名に2kgサイズの活ミーバイをプレゼントした。また、両日共にミーバイ汁を販売した。



魚食普及活動（与那城町漁協）



ミーバイ握り体験（あやはし館）



タイムスプレミアムキッチン
(カヌチャベイホテル)



沖縄ミーバイ料理試食会
(カヌチャベイホテル)



ミーバイ豆腐よう、かぶら寿司、みの揚げ
(カヌチャベイホテル)



ミーバイつかみ取り
(沖縄市ファーマーズマーケット)



ミーバイ汁販売 (ホームセンタータバタ)

3. 結果および考察

平成24年度に県内のヤイトハタ養殖業者18経営体と仲買の3業者からなる「沖縄県ミーバイ生産者販売促進協議会」の立ち上げが実現し、「沖縄ミーバイ」の商品名で販売促進活動を開始し4年が経過した。この間、委託事業により、公式HP開設による情報発信、生産者、取扱業者、飲食店等への実態調査、販促グッズ製作、イベント参加による販促活動ならびに複数回にわたる事業検討会等によって協議会機能強化のための支援を行っている。その結果、事業検討会、協議会での意見交換やイベント活動等によりそれまで単独で生産、販売を行ってきた業者の間で連帯感が生まれ、生産者間および仲買業者と生産者の間で安定供給への取り組みが積極的に行われるようになった。また、水無し活魚輸送や活メ等、沖縄ミーバイの品質向上のための積極的な取り組みがなされており、その結果、取扱業者からの品質への評価が国内に止まらず、シンガポールを中心とした海外においても高まったといえる。

こうした中、今後、「品質の安定した沖縄ミーバイを安定供給すること」が課題となっている。そして、課題解決のために、徹底した飼育管理による生残率の向上や、情報共有による協議会での在庫管理、生産者、仲買業者の連携による沖縄ミーバイの流通の円滑化、餌の品質に伴う高付加価値化の促進といった提案がなされている。また、沖縄ミーバイ養殖業者の経営安定の為には飼料コスト軽減が重要なカギとなっており、石垣支所等が行うこれに関連した試験研究が注目される。普及指導員としては、今後こうした取り組みへの支援のため、試験研究機関等と連携し、継続して指導を行ってゆく。